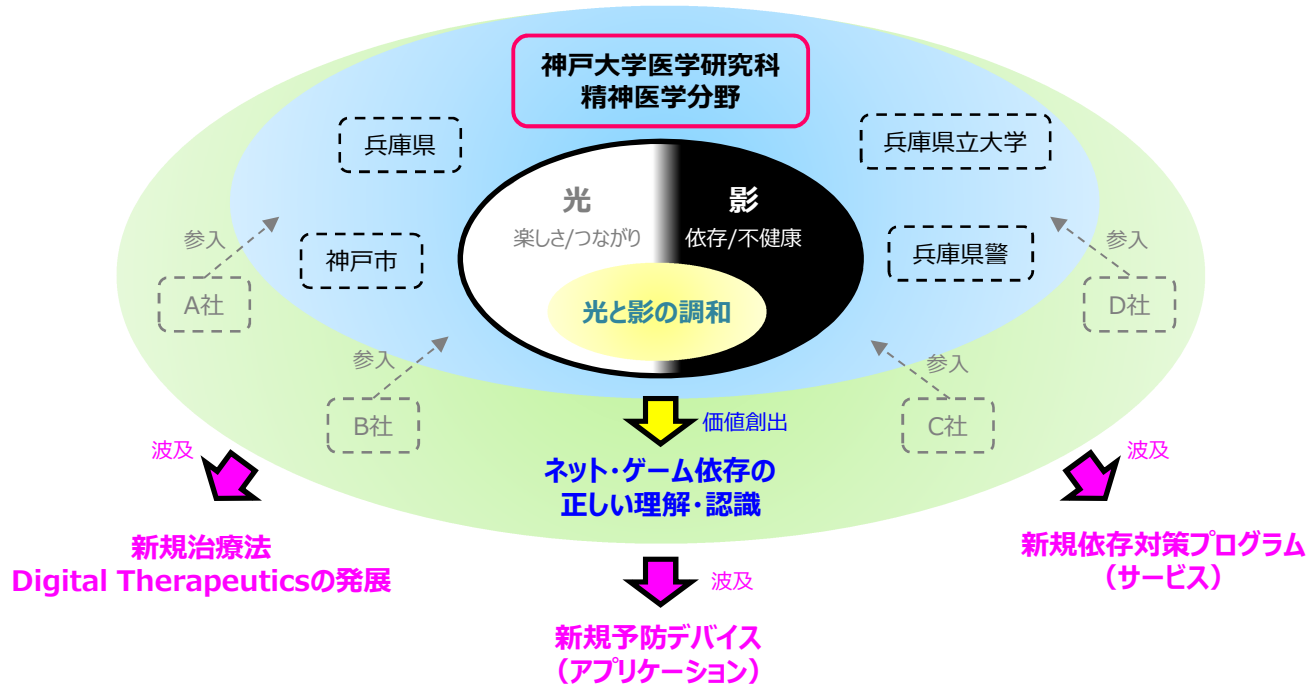


神戸ネット・ゲーム依存対策拠点構想



近年ではネット・ゲームを依存の温床として「影」とする風潮が根強く、ネット・ゲーム等デジタル機器が本来有する楽しさや社会関係の構築・つながりといった「光」の面が強調されることは少ない。つまり、「光」と「影」が二項対立の関係にあるため、ネット・ゲーム依存に対する正しい理解や社会的な位置づけ・あり方が不明確となっている。

したがって、ネット・ゲーム依存を正しく理解し予防するためには、これまで二項対立の関係あったネット・ゲームが持つ「光」（楽しさ・社会性構築）と「影」（依存・不健康）のバランスを執り調和するための社会システムを構築し、そこからネット・ゲームの正しい付き合い方・あり方、そして依存予防対策を新たに価値創出する必要がある。

神戸大学病院は国内有数の「ネット・ゲーム依存専門外来」を備え、2018年から兵庫県・神戸市の依存症の治療拠点に指定されている。このような依存対策における強み・社会的影響力を活かし、神戸大学を中心とする産官学コンソーシアムを形成し、神戸からネット・ゲーム依存の正しい理解・認識を価値創出し、依存対策・予防のためのイノベーションを創出するための「神戸ネット・ゲーム依存対策拠点構想」を提起した。